



炬火を掲げていざ謳う

No.2

我らの泉鳥取

2022年5月12日(木)

編集・発行 泉鳥取高等学校(教頭)

大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10

府立第104高校

府立泉鳥取高等学校と命名

昭和51年1月1日

昭和50年3月13日、府議会で府立第104高校の建設予算が通りました。昭和50年4月開校準備事務所が設置され、6月5日に泉南郡阪南町自然田854番地で校舎第一期工事起工式が執り行われました。本校の創立記念日6月5日は、この日を当てています。

大阪府立泉鳥取高等学校の開設と命名は昭和51年1月1日で、石川正敏初代校長をはじめ、各分掌長や学年主任など10数名に辞令が発せられました。

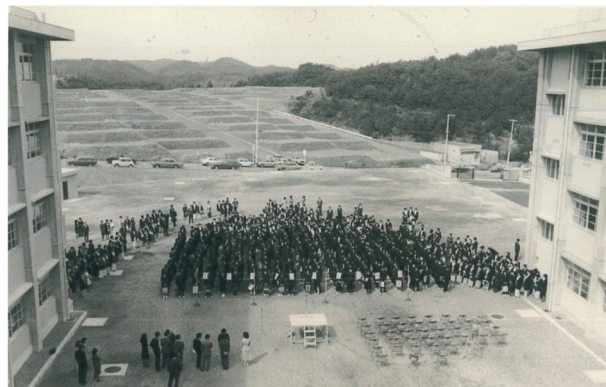
JR(当時国鉄)の駅名が和泉鳥取駅であるのに、学校名が「泉鳥取」となったのは、当時は漢字3文字までで学校名をつけていたためだといわれています。

当初準備室は和泉高校内に設置されましたが、2月末にはいよいよ新校舎に事務室が移され、本格的に開校準備が着々と進められました。

昭和51年4月1日、ついに開校され、1期生10学級450名が入学しました。記録によると阪南町からの入学者が120名であり、これは、全体の27%にあたります。

校訓の「自主研精」は、昭和51年度の学校要覧に見え、開校当初からの校訓であることが分かります。

体育館の竣工は昭和52年、1期生の入学式は、現在体育館のある位置で、青空の下挙行されまし



第1回入学式の写真ほぼ同一から撮影した令和3年現在。

昭和51年の写真では玉田山と住宅地が見えている。



た。周辺の住宅地はまだ造成中の状態で、家屋は一軒も見当たりませんでした。学校敷地内にも1本の植栽もなく、玉田山の濃い森の様子が際立っていました。

入学式の後、1本の桜の木が植樹されました。この桜は健在で、裏門スロープ横にあり、今も春になると満開となり、入学生徒たちを温かく見守っています。